東京旭川会
会報
ななかまど

第25号　平成15年（2003）12月25日発行
発行所　東京旭川会　〒104-0061
東京都中央区銀座3-9-4
文成ビル３Ｆ
竹原法律事務所内
TEL・FAX03-3546-7339
編　集　東京旭川会広報委員会

会場にふるさと再現。望郷の一夜に。

秋の気配が一段と深まった10月17日、新宿・都庁前のホテル「センチュリーハイアット東京」で、「第27回東京旭川会　総会・懇親会」が盛大に開かれた。遠路かけつけた菅原功一・旭川市長ら来賓・随行者21人、会員82人、総勢103人。総会に続く懇親会では、テーブルを囲んで懐かしの仲間の顔を確かめ合いながら、秋の夜長に歓談の輪が広がった。

開場は午後6時半。その1時間も前から会員たちが続々と集まりはじめた。広いロビーでくつろぎ、旧知が再会を喜ぶ姿があちこちに見られた。

会場は昨年と同じ、広々とした「クリスタルルーム」。特産品と恒例の旭川ラーメン屋台、北海道物産販売コーナー、そしてメーンテーブルには和食、洋食、中華の料理がところ狭しと並んでいる。テーブルを取り巻くように、冷えたビールが並んだ7、8卓の丸テーブルが配置され、壁際には高齢者に配慮してか椅子がたくさん並べられている。

午後6時半、司会を務める安井規雄幹事の一際大きな高い声で、総会の幕が落とされた。大雪山系の頂きはすっぽり冠雪、ナナカマドがすっかり紅葉して雪虫が舞うなど、冬支度に勤しむ故郷の近況風景が報告され、会場は一気に盛り上がりを見せた。

会則にのっとり議長に竹原茂雄会長が選出され、議案審議に入った。小柳武二事務局長から、「平成14年度事業報告並びに決算報告」（第1号議案）と「平成15年度事業計画、予算案」（第2号議案）についての報告があり、植木宏昌監事からは決算に伴う監査報告がされ、全員の拍手で承認された。引き続き、「会長選出」（第3号議案）などに移り、会場のあちこちから「会長留任でお願いします」の声、満場一致で留任が決定。議案審議はとどこおりなく終了した。

留任決定を受け、竹原会長は「微力ながら、引き続き務めさせていただきます。会は年々会員が減り、歯止めがきかないのが悩みの種。会員増をはかるべく専門委員会を設置して頑張っています。故郷・旭川という共通の話題を通して、新たな出会いを増やしていきたい」と決意表明。

この後、司会はベテランの加藤桂子幹事にバトンタッチされ、懇親会の開宴。軽快な音楽が流れる中、菅原市長を先頭に21人の来賓が入場し、一段と大きな拍手。

竹原会長の挨拶を皮切りに、なごやかな宴が始まった。「旭川は明治・大正時代の建造物が今に残る文化のマチです。先日、ＴＢＳラジオに耳を傾けていたら、旭山動物園を見学した永六輔さんが〝あんな素晴らしい動物園はない〟とベタぼめの感想を語っていました。私たちはそんな旭川に育ったことを誇りに思っています」とエールを贈り、続いて「会員減が続いて残念だが、ひとりでも多くの方々に参加して頂けるよう工夫をこらし、会を盛り立てたい」と述べた。

菅原市長は「お招きを頂いて、喜んで飛んでまいりました。旭山動物園は新聞、テレビを始め、皆さんのバックアップもあって昨年は最高の人出。今年はその記録を更新する勢いで、全国何処でも話題です。旭川空港も、今夏から東京―旭川間にＡＩＲＤＯが就航して便利になり、今年は開設以来、最高の利用客で賑わいました」と述べた。

次いで来賓が紹介され、三上章・旭川市議会議長の乾杯の音頭で懇談の輪が広がった。

ビール、水割り、ワインを片手に語り合うグループ、椅子に腰を下ろし料理に舌づつみを打つ人など、あちこちで談笑の渦。その間をポラロイドによる無料撮影サービスが提供され、人気を博した。

ラーメン屋台はホテルのシェフが丹精を込めたとあって人気も絶頂。隣接の特産品コーナーでは、旭川のジャガイモを使った「リヨネーズ」カボチャを調理した「ムース」などが並ぶ。

今年は旭川市初の世界チャンピオン誕生を目指す第26代日本スーパーフライ級チャンピオンのプロスパー松浦選手（国際ボクシングスポーツジム所属）が特別参加する予定だったが、9月6日に開かれた初防衛戦でのダメージで、残念なことに不参加。司会の加藤幹事は、同ジムの高橋美徳会長から届けられた「松浦は将来必ず世界チャンピオンになれる期待の星。郷土の皆さん、応援をよろしく」とのメッセージを読み上げた。

来賓の中からは、北海道国際航空（株）代表取締役社長の滝澤進氏、男山（株）社長の山崎興四良氏の挨拶があり、華を添えた。

宴がたけなわに達したころ、安井幹事の司会で抽選会が始まった。当選番号を読み上げられるたびに歓声が上がる。圧巻は、東京―旭

川間の航空券（往復）とホテル宿泊券セット2組の抽選。ゲットした吉崎与一さんは「4年前に続いて2度目。ものすごくラッキー。孫と遊びに行きます」と大喜び。協賛各社から提供された賞品が次々に手渡され、空くじなしの抽選会はわきに沸いた。

参加者の最高齢者は浦和市在住の田中国夫さん（82）。旭川を離れて20年余。市総務課の文書係長時代に「旭川市史」（全7巻）の4巻まで編集に関わった。「毎年欠かさず参加しているが、顔なじみが年々減って寂しい」と感想を漏らす。また、初参加の萩達郎さん（79）＝川崎市在住＝は旭中34期。同期会で東京旭川会の存在を知った。「中学時代の仲間に出会って本当に楽しかった」。

宴の締めは髙丸修・旭川商工会議所会頭による万歳三唱。拍手のなか盛会だった会も終了。参加者は米や本場・旭川ラーメン入りの土産袋を手に、来年の再会を約束して散会した。

第27回東京旭川会総会・懇親会出席者名簿

（順不同・敬称略）

ご来賓（旭川市関係）

旭川市長・菅原功一、同夫人・菅原美喜子、旭川市議会議長・三上章、同事務局庶務課長・谷口和裕、旭川商工会議所会頭・髙丸修、旭川市収入役・斉藤昴一、商工観光部産業振興課主幹・野村斉、企画財政部秘書課・嘉屋昌幸、企画財政部秘書課主査・坪内浩行

ご来賓

北海道新聞社東京支社支社長・村田正敏、（社）北海道倶楽部調査役・布施俊幸、北海道ふるさと会連合会会長・小山昌志、サッポロビール（株）営業推進部部長・手島孝雄、北海道国際航空（株）代表取締役社長・滝澤進、同東京支店支店長・猪瀬英雄、同副支店長・西崎政明、男山酒造（株）・山崎興四良、オエノンホールディングス（株）秘書課長・秋田悠紀夫、（株）ダンケジャパン統括マネージャ・山本勝也、池田町東京事務所所長・中林司

祝電

関西旭川会会長・豊澤敬一郎、（社）旭川観光協会会長・稲村健蔵

会員

浅野義亮、相田進、有本誠、伊東喜久子、岩渕清司、伊塚清、岩垂由紀子、植木宏昌、海老澤美智子、太田明、大野武夫、大屋道夫、折登園枝、荻達郎、大竹龍雄、大島英一、尾崎靖亮、川端英人、加藤文哉、神部泰、加藤桂子、柏谷直北野正夫、喜多美佐子、北村武宏、窪田敬昭、黒崎弘、近野光佑、小柳武二、佐藤美紀、斉藤弘明、佐藤哲朗、直原綾子、菅井周二、高尾榮二、高橋文子、田原勝司、竹原茂雄、高木宏明、田中国夫、高畠政雄、武田陽子、高田保、綱島正寛、寺田英子、土井磨智子、仲川有、中村泰敏、西木戸孝夫、西田育子、西村明、沼形英男、野作雅章、浜崎泰子、原田忠治、坂東勝利、坂東幸子、原公朗、広野貴之、古畠誠一、堀江秀明、本間敏弘、本田真知子、松島正、松田勇三、牧野哲雄、牧野百合子、松島蔦、牧田紀子、森陽一、森喬伸、茂木信昭、森真弓、森山広子、安井規雄、山本剛、山原正博、山城弘康、山本正純、横田茂、吉崎与一、横倉博

桑本平八前事務局長　逝く

またひとり、東京旭川会の巨星が消えた。桑本平八前事務局長、享年81歳。当会の発足以来、八木祐四郎前会長との二人三脚で会を支えてきた名事務局長であった。

11月12日には通夜、翌13日には告別式が戸田斎場にて行われたが、いずれも本人の遺志により家族のみの密葬となった。とはいえ、バイアスロンなど各種スポーツ団体の事務局長なども務めたとあって、訃報を聞きつけた有志たちが、会場を訪れて最後の別れを告げた。

ご子息の話によると、この夏頃から目に見えて体調を崩し、通院、検査をくり返していたという。11月7日入院、9日には容体が悪化して午前1時半逝去。肺がんであった。

今年の総会・懇親会にも体調不良で欠席され、出席者からは桑本氏の消息を問う声が多く聞かれた。

信頼が篤く、頑固な面も持ちあわせていたが、後輩達の声に耳を傾ける柔軟な心の持ち主でもあった。そんな人柄が多くの人に愛された所以であろう。

心からのご冥福をお祈り申し上げます。

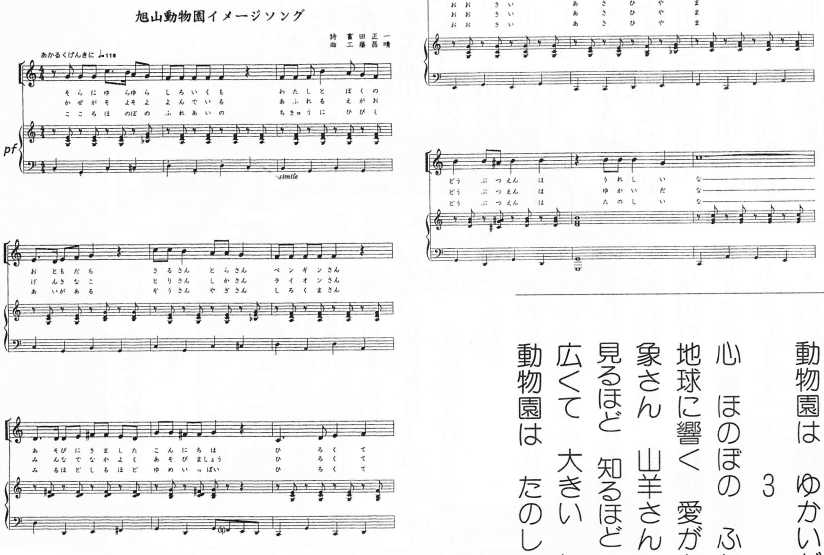
ご協賛・ご協力

★旭川市
★旭川市議会
★旭川商工会議所
★（社）旭川観光協会
★（財）道北地域旭川地場産業振興センター
★旭川グランドホテル
★旭川パレスホテル
★ホテルクレッセント旭川
★北海道国際航空（株）
★男山（株）
★（株）ササキ工芸
★センチュリーハイアット東京
★サッポロビール（株）
★ニッカウヰスキー（株）
★オエノンホールディングス（株）
★藤原製麺（株）
★（株）セーキ
★佐賀孝郎商店
★（有）本間不動産
★（株）ダンケジャパン
★今野醸造（株）
★（株）大心堂雷おこし
★（株）毎日新聞社
★池田町東京事務所

旭山動物園のイメージソングができました

ユニークな施設で全国から注目を集めている旭山動物園が、イメージソングの歌詞を募集したところ、多くの作品が寄せられた。

その中から富田正一さんの作品が選ばれ、工藤昌晴さんが作曲をした。楽譜を希望される方は、旭山動物園に。☎0166-36-1104



作詞　富田正一

1
空に　ゆらゆら　白い雲
わたしとぼくの　お友だち
猿さん　虎さん　ペンギンさん
遊びにきました　こんにちは
広くて　大きい　旭山
動物園は　うれしいな

2
風が　そよそよ　呼んでいる
あふれる笑顔　げんきな子
鳥さん　鹿さん　ライオンさん
みんなで仲良く遊びましょう
広くて　大きい　旭山
動物園は　ゆかいだな

3
心　ほのぼの　ふれあいの
地球に響く　愛がある
象さん　山羊さん　白熊さん
見るほど　知るほど　夢いっぱい
広くて　大きい　旭山
動物園は　たのしいな

第16回「郷土訪問の旅」

故郷は近くにありて……

加藤桂子

今年の「郷土訪問の旅」は、9月2日から4日か5日までの旅程で実施された。竹原会長夫妻を始め参加者総勢22名は、穏やかに晴れわたった大雪連峰を望みながら、無事旭川空港に到着した。

空港内に中国語やハングル語の案内があることにまず驚いた。東南アジアからの観光客が、千歳経由ではなく直接、旭川から観光を始められるようになったそうで、発展ぶりがこの一事をみてもよく納得できた。その他、市役所の方の報告を伺いながら、パレスホテルへ向かった。

ホテル最上階で市主催の歓迎昼食会が開かれ、菅原市長より歓迎のご挨拶をいただき、久しぶりの故郷の美味しい味を堪能し、旭川に帰ってきたことを実感した。

竹原会長のお礼の挨拶でお開きとなり、それから希望者で旭山動物園へ出発した。昨年も同じ企画で訪問しており、「時の経つのを忘れるくらい楽しかった」と聞いていたところなので、とても期待していた。

噂にたがわず、全国にその名をとどろかせるだけのことはある。とにかく、どの動物も生き生きと自然の姿を見せてくれる。

最初に出迎えてくれたペンギン達は、人を恐れるどころか反対に私たちを観察するかのように近寄ってくるし、オランウータンは3月に生まれた赤ちゃんを抱いて、地上16メートルに張ってある綱をゆうゆうと渡る空中散歩を披露。

猿山のお猿さん達は、四角い箱の小さな穴に手を入れて、一生懸命エサ取りに夢中である。ダイナミックな泳ぎを繰り返す白熊は、見ていて飽きない光景である。

このようなありのままの姿を動物園で見せるのは大変なこと。ご説明くださった小菅園長はじめスタッフの皆さんの動物の命に対する愛情が、しみじみと伝わってきた。

エンリッチメント大賞2002の飼育施設部門大賞、最優秀動物園賞を受賞し、優れた動物園として認められているのも当然と思う。見どころいっぱいで心残りであったが「また、皆に会いに来るからね」と心につぶやきながら園を後にした。

その日の夜は市役所の「東京事務所勤務経験職員」の方々と有志による懇談会がもたれ、旧交をあたためた。

翌日からは各自自由行動となり、私は旭川在住の姉と娘の女三人連れで層雲峡へ。銀河、流星の滝が昔と変わらぬ美しさで流れ落ちていた。ケーブルカーに乗り、黒岳を仰ぎ見ると、日本一早いと言われているとおり、頂上付近はすでに紅葉が始まっていた。

〈故郷は遠くではなく、近くにありて思うもの〉を実感する良い機会であった。お世話くださった旭川市役所、旭川東京事務所の皆さまに感謝しつつ筆を置く。

数字でたどる旭川

大正11年（1922）⇩平成12年（2000）

「旭川」が市制を確立したのは、大正11年（1922）8月1日。それ以前、歴史上、初めて旭川という名が登場するのは明治23年（1890）、上川郡に旭川、神居、永山の3村が置かれたのが始まりです。

当時の旭川村の人口はわずか697人でしたが、同30年の上川郡役所の開庁、31年の鉄道開通（滝川・旭川間）にともない村も発展、33年8月31日には村から町へと改称します。

さらに1年後には第七師団司令部が札幌から旭川に移転し、人口は飛躍的に伸びて、前述の市制施行へとつながるのです。

市制から78年目の平成12年（2000）4月1日、市は道内初の中核市へと移行します。

中核市とは政令指定都市（全国で12市）に準じた事務権限を持つ都市のこと。人口30万人以上、面積100㎢以上の条件を満たす必要があります。

62,462人⇩363,205人

大正11年の市制当初、旭川市の総戸数は1万2371戸、人口は6万2462人でした。

昭和30年頃からは近隣町村との合併が進みます。同30年には神居・江丹別村と、36年には永山町、38年には東旭川町、43年には神楽町、46年には東鷹栖町との合併を果たします。

その結果、平成14年の国勢調査では16万6822戸数、人口は36万3205人を数え、北海道では札幌に次ぐ第2の都市として着実に発展を遂げています。

22.23km²⇩747.601km²

市制が施行された当初、22・23㎢であった旭川の面積も合併とともに次第に拡大し、今では747・601㎢。全国都市671市中10位の広さを誇ります。

人口密度は、1㎢当たり483人。東京の人口密度が5554人ですから故郷の人々は、今もゆとりある空間のなかで暮らしているのです。

上・大雪山系を背景にした今の旭川
下・明治33年頃の師団道路と2条通り

左上に走るのが師団通り（現平和通）手前が2条通り

100万石⇩40,800トン

日本でも有数の広い面積を有しているにもかかわらず、旭川の農業従事者は、8465人。人口比率のわずか2・8％にすぎません（平成12年度・国勢調査による）。そんな中で、平成14年度の水稲収穫量は4万800トンと全道1位。全国的にみても971市中2位の収穫量を誇ります。

そもそも、旭川に稲作が導入されたのは、明治24年。上川郡雨粉の杉沢繁吉さんの水稲試作の成功がきっかけでした。

先人たちの幾多の苦労と時を経て、昭和3年には上川管内産米100万石（約15万トン）の突破を果たします。さらに同38年度に旭川は、市町村単位の産出米出荷で日本一となりました。

平坦な地勢と典型的な内陸型気候、石狩川・牛朱別川・忠別川・美瑛川が交差する地理的条件により、上川は道内有数の米の産地として定着してゆきます。

6校⇩152校

まだ旭川が町であった時代から、急激な発展とともに、教育施設も急増します。

市制施行以前の明治30年代から大正初期にかけて、上川第一から第六までの6校の尋常小学校が設置されます。

大正7年には上川尋常高等小学校が中央小学校に、上川第一尋常小学校以下を日章、大成、北門、朝日、豊栄、青雲小学校とそれぞれ名称が改められ、同11年には旭川商業学校、旭川盲唖学校が、12年には北海道旭川師範学校（現北海道教育大学旭川校）が設立されます。

現在、旭川市内の学校は幼稚園から大学、聾唖、養護学校まで含めると152校。内訳は幼稚園33校、小学校60校、中学校35校、高校15校、大学・高専6校、盲・聾・養護学校3校となっています。

昭和47年（1972）⇩平成14年（2002）

旭川の中心といえば平和通り。デパートや商店が立ち並び、昔も今も変わらぬ賑わいを見せています。

その平和通りが全国に先駆けて買物公園として生まれ変わったのが昭和47年（1972）6月1日。JR旭川駅から8条通りにかけて南北1㎞の区間です。

通りから車両を一切排除して、恒久的に歩行者優先とした画期的な試みは、全国的に注目を集めました。

そして30年目の平成14年（2002）、4年間の工事期間を経てリニューアルが完了。冬期に備えて路面のロードヒーティング、イベントゾーンの設置など、大きく様変わりしました。

なかでも特筆すべきは、野外彫刻の存在。旭川ゆかりの彫刻家・中原悌二郎の作品を始め、多くの作家達の作品が並べられ、「彫刻のまち」旭川のシンボルともなっています。

（参考資料「開基一〇〇年記念誌・目で見る旭川の歩み」など）

JR旭川駅周辺の鉄道高架工事始まる

いよいよ、この12月からJR旭川駅周辺の鉄道高架事業が始まった。この事業は、「北彩都あさひかわ」の開発地区の一環として、地域を分断している鉄道の高架を図ることにより、交通の流れを円滑にし、さらに都心部と駅南北の市街地の一体化を目指すもの。

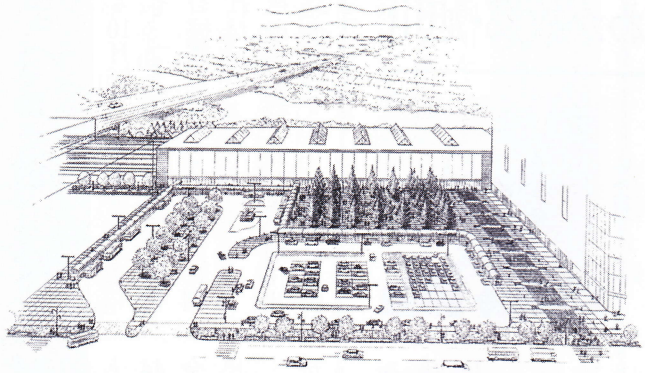
既成の都心部をより広げるために、新しい駅舎は現位置から約70m、忠別川寄りに移動することになっている。

また、鉄道の高架にともなって、既存の大雪通りの他、昭和通りと永隆橋通りの2本の通りが忠別川を渡って延長され、神楽岡方面への動きがスムーズとなる。

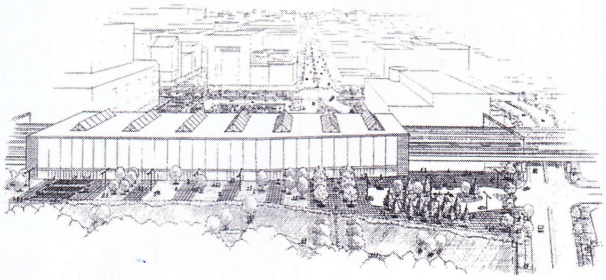
旭川駅は函館本線、宗谷本線、富良野線の大切な要。新しい駅舎も高架構造となり、プラットホームも4面7線の計画という。

具体案の詳細はまだ未定。高架事業の完成は、平成23年を予定している。

・駅前広場の景観イメージ（北口）



・駅南口の景観イメージ



東京から注文できる旭川の産直品

原料の段階から大切に育て、無添加で心をこめて手づくりした安全でおいしい加工品の数々。東京からも注文ができます。農・畜産品を中心に、賞味期限が一週間以上のものを選びました。詳しくは、各生産者にお問い合わせください。送料・消費税は別途。

旭川米生産流通協議会
ほしのゆめ100%「大雪山見て育ったの」
10kg・4,900円
※時期により変動があります。ご了承ください。
お申し込み・お問い合わせ
旭川市4条通9丁目　朝日生命ビル
旭川農業振興課内
☎0166-25-7438　FAX 0166-26-8624

西神楽夢民村
日本酒「風のささやき」
300ℓ・398円／720ℓ・1,100円
720ℓ×12本・2,500円
720ℓ×13本・3,500円
お申し込み・お問い合わせ
旭川市西神楽1線11号
☎0166-75-4032　FAX 0166-75-3347

ふじくらますも果樹園
「古潭そだち」りんごジュース
500mℓ・500円／1ℓ・800円
「古潭そだち」しそジュース
500mℓ濃縮・400円／1ℓ・400円
リンゴジャム／90g・300円
プルーンジャム／90g・400円
お申し込み・お問い合わせ
旭川市神居町神居古潭
☎0166-72-2262　FAX 0166-72-2146

有限会社　谷口農場
トマトジュース「ゆうきくん」
190g・200円
きゃろっとジュース／190g・200円
キャロット＆トマトジュース
190g・200円
オーガニックトマトジュース
700mℓ・800円
手作りみそ／800g・640円
お申し込み・お問い合わせ
旭川市東旭川町共栄255
☎0166-34-2534　FAX 0166-33-3048

有限会社　キョクトー
「北の大地」かぼちゃのスープ
100g・200円／200g・350円
「北の大地」スイートコーンのスープ
100g・200円／200g・350円
「フレッシュ桃太郎」トマトジュース
500mℓ・500円
お申し込み・お問い合わせ
旭川市東鷹栖5線12号
☎0166-57-5779　FAX 0166-57-8546

TOMBI（トンビ）グループ
ポークウインナー／200g・500円
荒挽ウインナー／200g・500円
フランクフルト／200g・500円
龍のフランク／200g・500円
キンダーヴィルスト
1本約300g・600円
お申し込み・お問い合わせ
旭川市西神楽2線6号
☎0166-65-9303　FAX 0166-65-4196

江丹別畜肉加工研究会
ポークソーセージ（月1回受注生産）
450g・1000円
お申し込み・お問い合わせ
旭川市江丹別町拓北
☎0166-73-2148　FAX 0166-73-2148

クリーマリー農夢
ローファットヨーグルト／900g・710円
手づくりバター／100g・700円
手づくりガーリックバター／100g・800円
「かみうぶんチーズ」（各種類があります）
約100g・500～1,000円
お申し込み・お問い合わせ
旭川市神居町上雨粉
☎0166-62-9380　FAX 0166-62-9380

旭正2生活改善グループ
「ゆきわ」青大豆味噌
450g・500円／800g・800円
1kg・900円
「ゆきわ」黒大豆味噌
450g・550円／800g・900円
1kg・1000円
「ゆきわ」利尻昆布入味噌
450g・550円／800g・900円
1kg・1000円
三升漬／40g・250円／130g・500円
佃煮「みよしちゃん」／50g・300円
130g・640円
かぼちゃポタージュ「なんきん」／130g・300円
青大豆きな粉・黒大豆きな粉／各100g・280円
お申し込み・お問い合わせ
旭川市東旭川町旭正409
☎0166-32-3602　FAX 0166-32-3602・3664

こぶしの会
味噌／1kg・500円
つけもの／300g～500g・200～1000円
お申し込み・お問い合わせ
旭川市永山町10丁目280
☎0166-48-6389　FAX 0166-48-6389

屯田の里
屯田しょうゆ／300mℓ・550円
屯田味噌／800g・750円／950g・750円
らーめん味噌／300g・550円
お申し込み・お問い合わせ
旭川市永山町16丁目
☎0166-48-8681　FAX 0166-48-8681

「まつど旭川村」が誕生

去る10月26日、千葉県松戸市において、「まつど旭川村」の開村式・お披露目のつどいが盛大に開催された。

松戸市には約160名の旭川出身者が在住しており、63名が村民として登録。この日の開村式には44名の村民と松戸市長、東京旭川会の竹原会長などが、来賓として出席した。

松戸市には平成13年に「函館村」が、翌年には「札幌村」が開村しており、北海道では「旭川村」は3番目となる。来年は「夕張村」の開村も予定されており、将来は『北海道サミット』の開催が計画されている。

村民活動としては、村民同士の親睦のほか、旭川市との交流活動として「懐かしいふるさと訪問」や行事への参加、そして他のふるさと村との交流も予定されている。

村民となれる人の条件としては、旭川で生まれ育った人、同地で学び、生業をした人など、旭川と関係のある人となっている。

反対に宗教・政治活動をする人、村を利用して金儲けを企んだり、村民同士の争いをおこす人、年貢を納めない人は、村人にはなれないとの村の定めがある。

初代村長には廣野貴之さん、助役には鈴木孝さん、収入役には海老澤美智子さんが就任している。

事務所／松戸市小根本7—25
松戸まちづくり交流室テント小屋内
松戸ふるさとまちづくり村役場
☎047—308—5200

わが故郷・旭川

太田　明

釧路生まれの私は、5歳のとき中富良野に移り住み、15歳で旭川に下宿し、工業高校に3年通った。

昭和20年卒業後、すぐに旧満州の燃料廠に就職したが、召集・入隊・終戦・抑留とつづき、結局シベリアで3年間の重労働を体験。帰国後、合同酒精旭川工場に入社、20年勤めて東京本社に転勤した。

旭川には学生時代も含め23年間住んだことになるので、やはりわが故郷は旭川である。

上川盆地南西の春光台から大雪山・十勝岳連峰を望む絶景に感動し、高砂台から旭川の街並みを見下ろし、その向こうに旭岳の秀峰がくっきり浮かぶ風景はいまも心に焼きついている。

旭川工場の庶務課に勤務していた頃、工場見学者の案内役も担当していたのであるが、見学に来られたある団体の夫人いわく

「私は主人が官史なので、転勤のため全国各地の街を転々としましたが、旭川ほど住みよい街はこれまでありませんでした。

街は静かで何本もの清流が流れ、人々はどなたも親切で、心豊かな人ばかり、しかも犯罪が殆どなく、豊かな自然にも恵まれ、安心して住めるのがとても嬉しいです」

私は思わず

「ありがとうございます」

と申したことを今も忘れない。

23年間住んだ旭川、私を育ててくれたわが故郷・旭川、胸を張って誇れる故郷である。

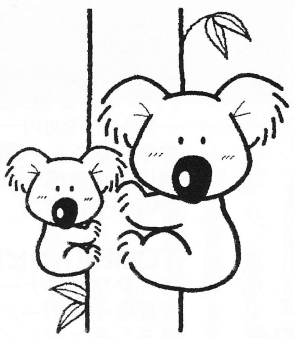
●マークの意味

紅葉に染まるふるさと大雪連邦の初還雪を
「まつど」のMで表現
「まつど」のMは「旭川」のAとAで支えている

北海道方言辞典　その⑤

「子は親の鏡」かい

文　高田　保
イラスト　中村泰敏



「この親にしてこの子あり」と申しますが、北国のある母と小学3年の児童の会話のひとこま。

母「K君、またおつゆ残したの**かい**。悪いけど、学校に行くときに**ゴミを投げといて**ネ」

K「いつも僕**ばっかしだべさ**」

母「お父さんは**ばんきり**朝早い**しサ**、しかたが**ないっしょ**」

（子どもが小学校から帰宅後）

母「今日は学校で何を**したんさ**」

K「運動会の予行演習があって**さ**、徒競争で**げれっぱ**になりそうになった**んで**、**はっちゃこいて**走ったら、3等になった**さ**」

母「えらい**っしょ**。**はじめっからけっぱれば**、1等なんか**あっぱくさいべさ**。**そんでもって**、**なんぼ**の子を**かてて**走ったんさ」

K「5人**さ**。**したって**心臓が爆発するほど**こわかったよ**」

母「**そんなべっこで**走って、**とろくさい**話しない**もんだよ**。ところで、テスト終った**んで**ないかい。知らん振り**してんの**」

K「**なあ〜んもさ**。ほれ、国語はまあまあでしょ。だけどさあ、算数は**なんぼけっぱっても**、**げれっぱ**の方なん**さ**」

母「何がまあまあさ。半分**こもいってないっしょ**。あんたは**くっちゃべる**割には、体育の成績も**わやだし**、誰に似たん**かね**」

K「この間、お祖母ちゃんがお父さん、お母さんに似て**めんこい**子だね、と言っ**とったわ**」

母「親を**おちょくる**なんて、**はんかくさい**子だよ」

どこのご家庭でも「鳶鷹」を期待しているんですね。

エア・ドゥが「旭川⇄東京」線を新規就航

「あ、雪の匂い」のロゴマークをペイントした機体が、7月18日に旭川空港に初めて登場した。

《道民の翼》といわれている北海道国際航空（エア・ドゥ）の旭川・東京線の新規就航が、この日実現。

当初は9月1日からの就航予定であったが、全日空（ＡＮＡ）が7月17日から路線を引き上げるため、市や経済界からの要請で1ヶ月半早い就航となった。

地元経済界も、民事再生中の同社に、1億円の出資を行って実現したもの。「旭川空港利用拡大期成会」で行ったアンケート調査では、73％がエア・ドゥを利用すると答えている。料金も安く設定されており、今後、道北圏域の観光振興など、経済効果が期待されている。

ご予約・ご案内（6：30～21：50）
フリーダイヤル　0120-057-333
電話　03-3490-1120
ホームページ
www.airdo21.com（24時間）

新神楽橋が部分開通

忠別川をまたぎ、宮前通り東と神楽岡公園を結ぶ「新神楽橋」が8月29日に部分開通した。

同橋の建設は、旭川駅周辺整備「北彩都あさひかわ」事業のひとつで、来年4月には全長４３２ｍ、片側2車線、測道と歩道を含むと45・5ｍ幅の橋が完成する。

新神楽橋の開通で交通渋滞の緩和に加え、川で分断されている市中心部との往来がスムーズになる。

現在の神楽橋は、新神楽橋の開通後、遊歩道の一部として歩行者や自転車専用として活用されることになっている。

開通式には旭川土木現業所や市、地元の市民委員会などから約１００人が出席。テープカットに続いて市消防音楽隊の先導で、渡り初めを行った。

旭川橋ものがたり③

「神居大橋」編

北海道・中央部の上川盆地に位置する旭川市。巡る山並みの東方に大雪山が聳え、中原を石狩川が流れる。

その石狩川は、石狩中央山地の主峰・石狩岳（標高１９６７ｍ）の北麓を水源とし、層雲峡を経て上川盆地の中央を多くの河川を合わせながら北東から南西へ横断。神居古潭渓谷をただ一カ所突き抜け、広大な石狩平野を潤しつつ、石狩町で日本海に注ぐ。総延長２６８㎞。道内最大の河川である。今回はその神居古潭が舞台だ。

神居大橋を見渡せる小高い丘にひっそりと立つ歌碑。へたきつ波　ましろう白う　岩にちる神居古潭のくもれる真昼〉とある。「昭和の歌人」として知られる九条武子の歌である。武子は西本願寺法主大谷光尊の次女で、男爵九条良致夫人。北海道旅行に出掛け、当時の神居古潭駅で汽車を降り、小高い丘に立って吊橋を一望、この歌を詠んだのであろう。

この地に最初に橋が架けられたのは明治31年（１８９８）に遡る。札幌郡苗穂村戸長だった安藤彦松が職を辞し、バッタ駆除のため神居古潭に移住する。明治31年7月に鉄道開通、やがて駅舎が建つ。安藤らが住む集落（現国道12号線側）と対岸の駅を結ぶため、私費を投じて架けたと伝えられている。長さ43・2ｍ。太さ4㎜ある8番線の針金が橋の上部に16本、下部に12本の計28本で支えられていたことから「針金橋」とも呼ばれていた。

針金橋はやがて徳富蘆花や岩野泡鳴の小説に題材として取り上げられ、神居古潭の絶景とともに、この吊橋を渡る際の恐怖感が語り継がれる。

訪れた人なら誰でも記憶にあるが、石狩川は神居古潭で大きな渦を巻いて激流に変身する。明治時代、当時の陸軍が水深を測量したくても急流に阻まれて測れなかったこと、さらに自殺の名所でいったんここに身を投げるとほとんど死体が上がらない、と言い伝えられてきた。

橋はやがて大正14年（１９２５）に「神龍橋」と名を変え、新たな吊橋が架設される。景勝地としての名声が高まって住民の熱望が強まったことによる。橋の長さは１０６ｍ、幅員２・４ｍ。このとき、地元有志から１２００円の寄付があったと記録されていることから見て、架設工事にいかに期待が大きかったかがうかがわれる。

現在の「神居大橋」の原型となる吊橋に架け換えられたのは昭和13年（１９３８）、総工費１５１万円。昭和47年（１９７２）には、この旧橋も解体され、今に残る吊橋（神居大橋）の架設となった。現在、橋のたもとに「10人以上同時に渡らないで下さい」との立札が建つ。安藤が私費で架けた針金橋にも「五人以上同時に渡るべからず」とあったという。

旧国鉄の神居古潭駅は昭和44年（１９６９）に函館本線複線化に伴って廃駅となり、現在は旭川サイクリングロードの休憩地に変貌した。また、１００年前に安藤が植えた「古潭桜」も再びかつての桜の名所・神居古潭としてよみがえろうとしている。

（参考文献は関根正次著「旭川の橋」など）

旭・川・だ・よ・り

天皇・皇后両陛下が行幸啓

天皇・皇后両陛下が有珠山復興の視察などで来道され、7月4日に旭川にお立ち寄りになりました。

天皇陛下が旭川を訪れるのは昭和43年以来、ご宿泊されたのは、昭和29年以来のことです。

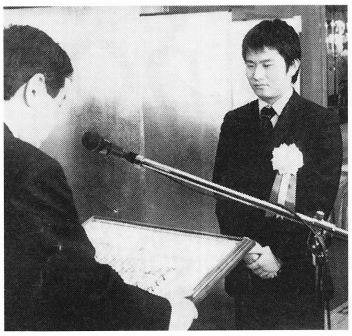
車列が通過する沿道では、大勢の市民が幾重にも連なって日の丸の小旗を振る光景が続き、宿泊したホテルの周辺の歩道は、ひと目見ようとする市民でいっぱいになりました。

両陛下は、特別養護老人ホーム「緑が丘あさひ園」を訪れ、デイサービスセンター利用者がビーチボールサッカーを楽しむ様子や、入園者のリハビリ訓練を視察され、お年寄りや職員に近寄って気軽にお声を掛けられていました。

今年は1月に三笠宮寛仁親王両殿下、2月には秋篠宮両殿下も来旭されており、多くの皇室の方々をお迎えすることができました。

山下敬吾さんに旭川市民栄誉賞を贈呈

囲碁会の最高峰と称される棋聖戦に挑み、2月27日に史上最年少でみごとに棋聖位を獲得した山下敬吾さんの快挙をたたえ、3月22日に市民栄誉賞が贈呈されました。



山下敬吾さんは昭和53年9月6日旭川生まれ。5歳のころ父親の健夫さんの手ほどきを受けて囲碁を始め、東栄小学校2年生の時に、少年少女囲碁全国大会において、史上最年少で優勝。翌年にプロ棋士を目指して上京し、中学3年生でプロ棋士になり、平成2年に第25期碁聖位を獲得しています。

市民栄誉賞の受賞は、先輩である囲碁の小林光一さん、柔道の恵本裕子さん、プロ野球の星野伸之さんに続き4人目となりました。

新しい科学館の計画がまとまる

新しい青少年科学館は「北彩都あさひかわ」に建設され、平成17年7月に開館する予定です。

1階の玄関ホールには、「ウォータースクリーン」を設置。5mの高さから流れる水の幕に、自分の顔や各種映像が映し出されます。

常設展示の「北国コーナー」では、雪の結晶や気候の仕組みなど、北国特有の気候を学び、「地球コーナー」では、地震や噴火など地球の自然現象や人類の進歩などが、「宇宙コーナー」では、無重力の疑似体験や迫真の映像により宇宙旅行を体験、広大な宇宙の原理がダイレクトに学べます。

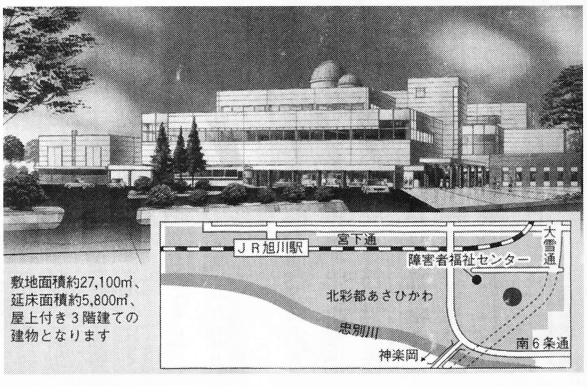
40人程度を収容するシアターは、250インチの大画面による迫力の立体映像を上映。雪や氷をテーマにした展示や、氷点下30℃までの低温実験室を設置し、ダイヤモンドダストの実験を行います。

プラネタリウムはドームの直径が18m、客席は約170席で、現在の科学館の約2倍の広さです。これまでの星空投影のほか、デジタルドーム映像を導入します。

2階には、パソコン実習室や理科実験室、電子、木工の工作室を設置。自習室では昆虫や鉱物等の標本や図鑑も完備、顕微鏡を使ったり、インターネットでの情報検索もできるなど、科学の不思議を自由に学ぶことができます。

屋上には口径60cm級の反射カセグレン式大型天体望遠鏡、口径20cmの太陽黒点観測用望遠鏡を備えた天文台2基が設置されます。

今後は、親しみやすい愛称の公募やボランティアの導入など、開かれた科学館づくりが積極的に進められます。



カムイ・スキーリンクスの営業譲渡先が決定

道内有数のスキー場「カムイ・スキーリンクス」（旭川市神居町西岡）の営業譲渡先が決まりました。

譲渡先は市内の不動産業、旭川北インター開発公社（湯佐英司社長）で、今期も例年どおり営業することが決定しました。

1984年にオープンした同スキー場は、国際スキー連盟（FIS）公認の3000mコースを始め、合計8本のコースがあります。

全国的にスキー愛好家が減少するなかで、経営難により存続が危ぶまれていましたが、関係者の情熱により、無事継続していくことになりました。

今年の1月、東京旭川会の故八木祐四郎前会長の尽力により実現した「全日本学生スキー選手権大会」でも、雪質とコースのすばらしさは高い評価を受けました。

来年の2月には、「全国高校総体スキー大会」のアルペン競技の会場にも予定されています。

編集後記

平成15年度の「総会・懇親会」は盛会のうちに終えた。会場にざっと目を見張らせた印象では、参加者の平均年齢は60歳前後か。「若年層が少ない」とは大方の感想。やはり故郷への郷愁は年輪との相関関係ありか。若者を引き付ける良いアイデアがありましたら、事務局までご一報下さい。（S）